

# AIを活用した社会構想と 人口減少社会のデザイン

広井良典(京都大学こころの未来研究センター)

[hiroiyoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp](mailto:hiroiyoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp)

# 全体の流れ

- 1. AIを活用した、持続可能な日本の未来に向けた政策提言
- 2. 「分散型社会」～「多極集中」のビジョン
- (付論)「分散型社会」の具体的なイメージ(続)：ローカライゼーションとコミュニティ(地域循環)経済

# 1. AIを活用した、持続可能な日本の 未来に向けた政策提言

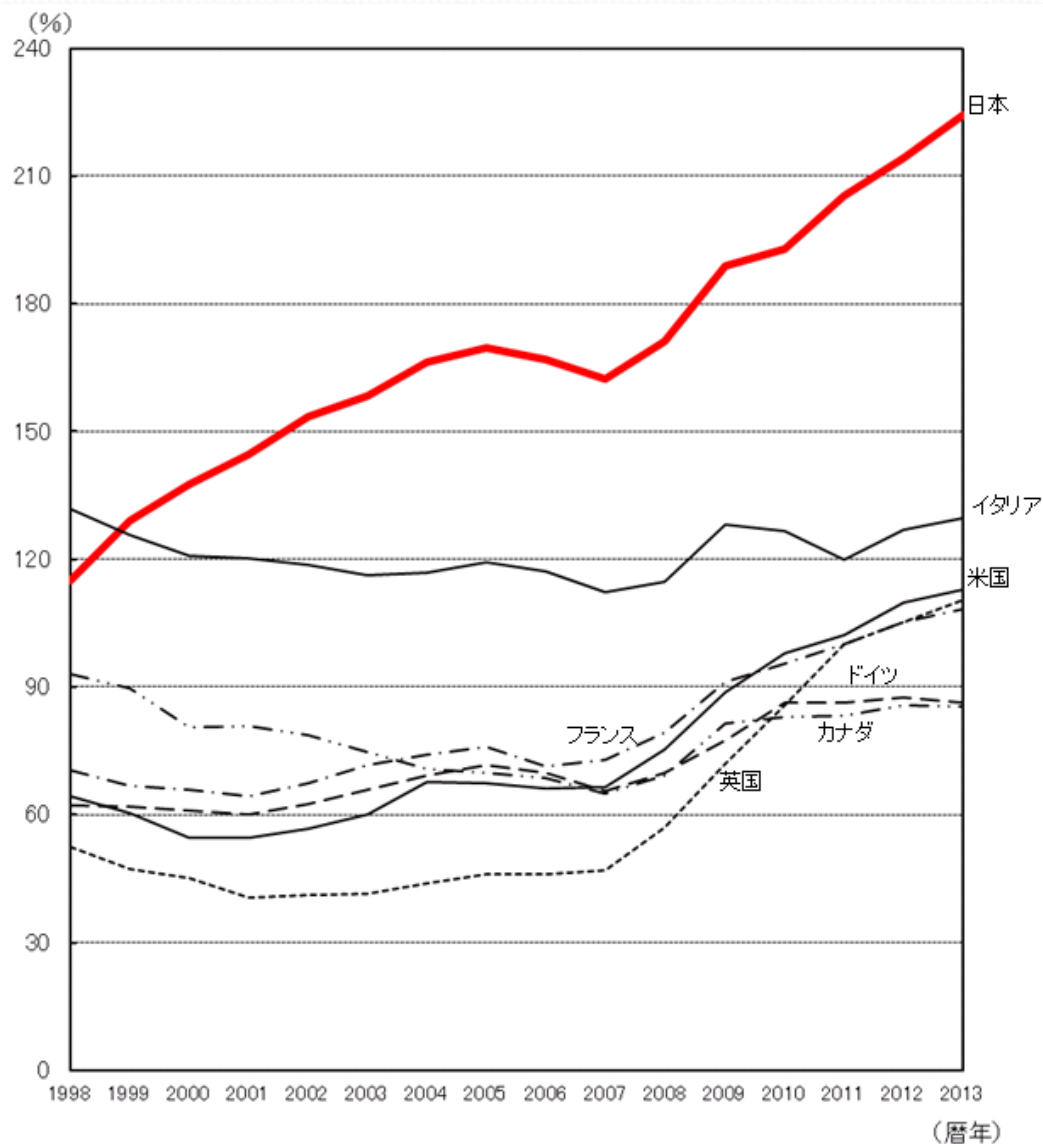
# 研究の出発点：2050年、日本は持続可能か？

日本社会の「持続可能性」を危うくしているものは・・・

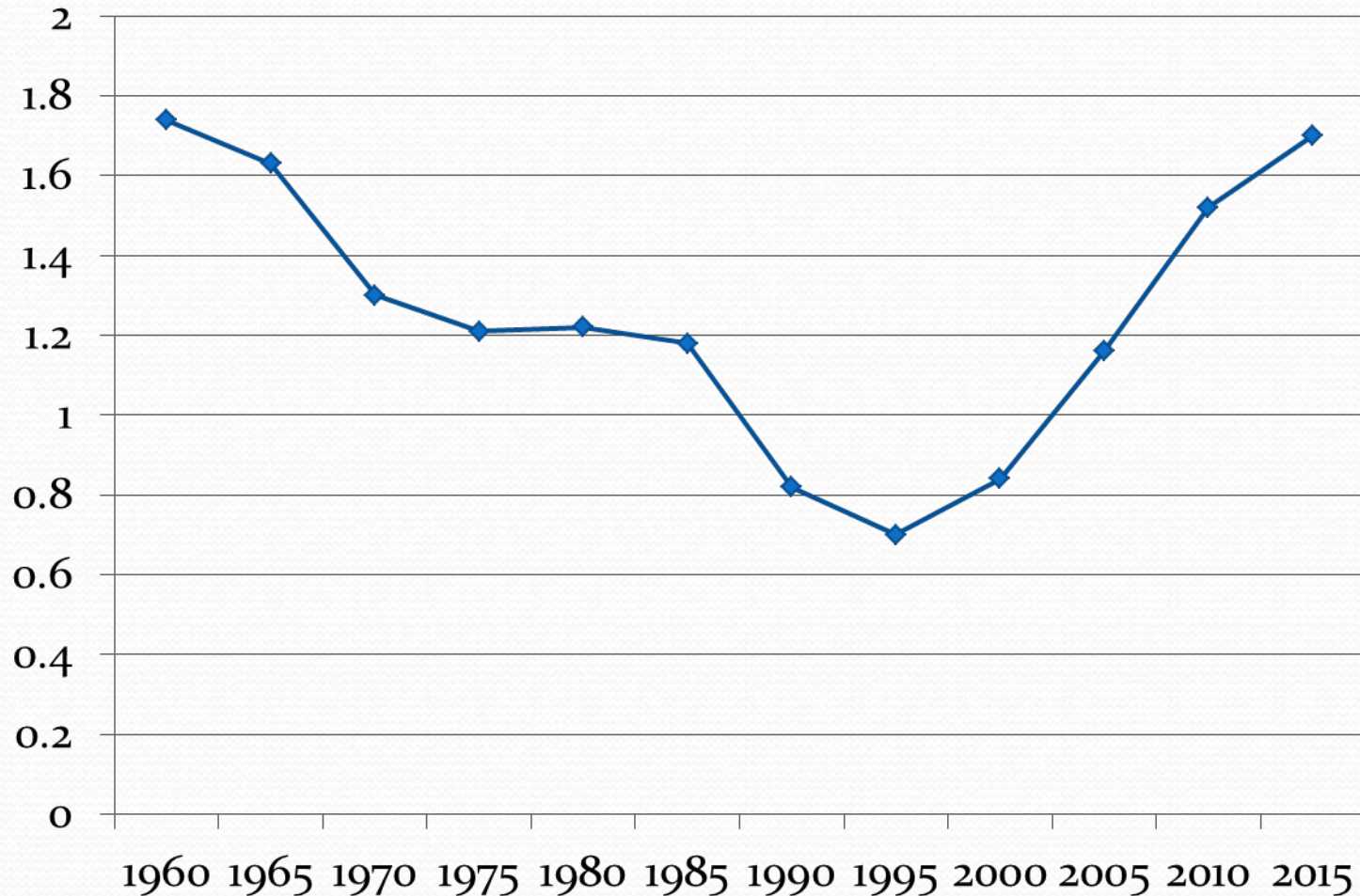
- 1) 債務残高の累積と将来世代への先送り
- 2) 貧困世帯割合の増加(90年代後半以降)と格差拡大  
～若年世代の困窮や子ども・若者への支援[人生前半の  
社会保障(含教育)の薄さ → 低出生率、少子化
- 3) 社会的孤立度の高さやコミュニティの希薄化

# 債務残高の国際比較(対GDP比)

…日本が突出



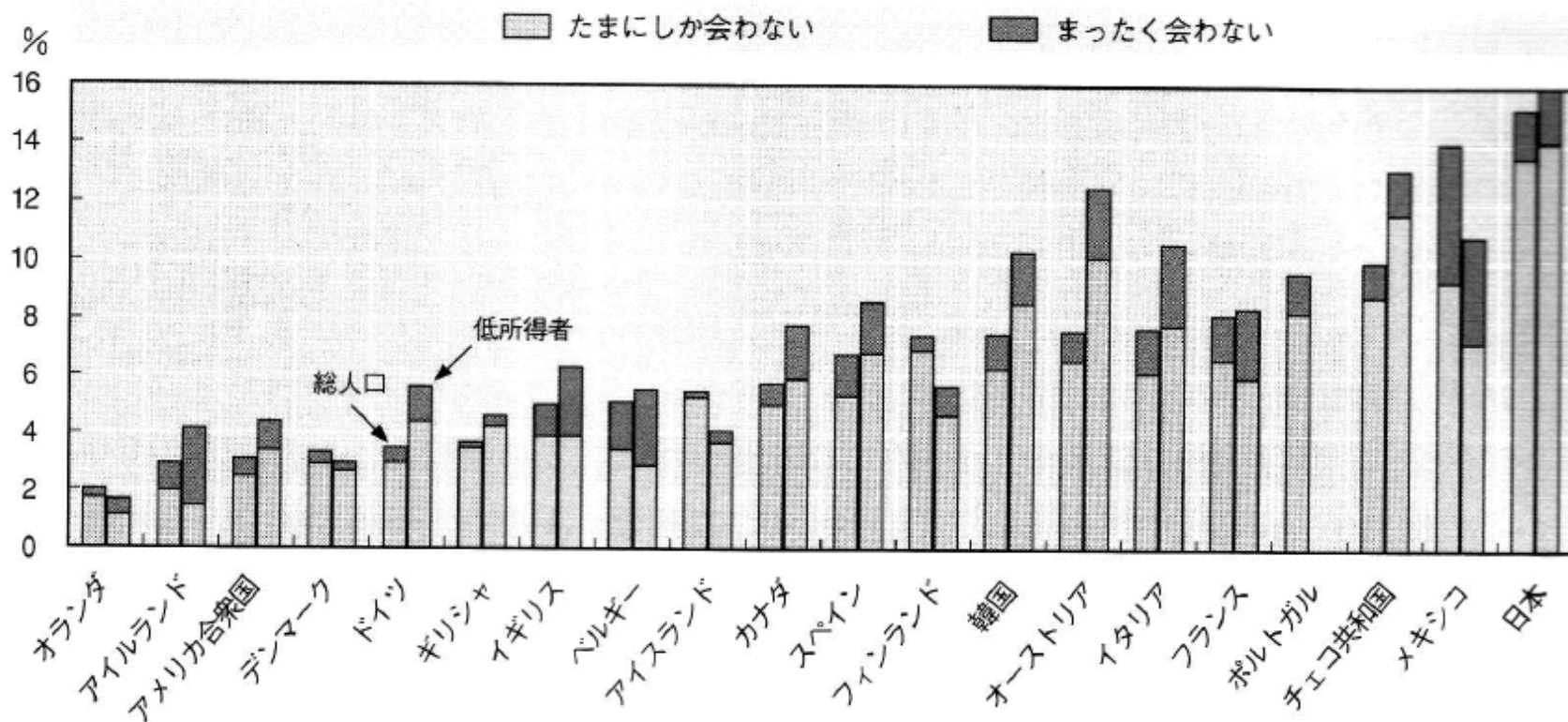
# 日本：生活保護を受けている者の割合 (保護率)の推移(%)



# 先進諸国における社会的孤立の状況

…日本はもっとも高。個人がばらばらで孤立した状況

図1.3 OECD加盟国における社会的孤立の状況 2001年



注：この主観的な孤立の測定は、社交のために友人、同僚または家族以外の者と、まったくあるいはごくたまにしか会わないと示した回答者の割合をいう。図における国の並びは社会的孤立の割合の昇順である。低所得者とは、回答者により報告された、所得分布下位3番目に位置するものである。

出典：World Values Survey, 2001.

# 2050年へのシナリオ とビジョン・政策選択

- A) 持続可能シナリオ
- B) 破局シナリオ・・・財政破綻、人口減少加速(←出生率低下←若者困窮)、格差・貧困拡大、失業率上昇(←AIによる代替等)、地方都市空洞化&シャッター通り、買物難民拡大(現在600～700万人)、農業空洞化
- これらについてAIを活用しつつシミュレーション。
- 「幸福」など主観的要素も。
- 2025年、2040年頃(高齢者数最大)、2060年頃(高齢化率最高)という節目・時間軸を視野に。



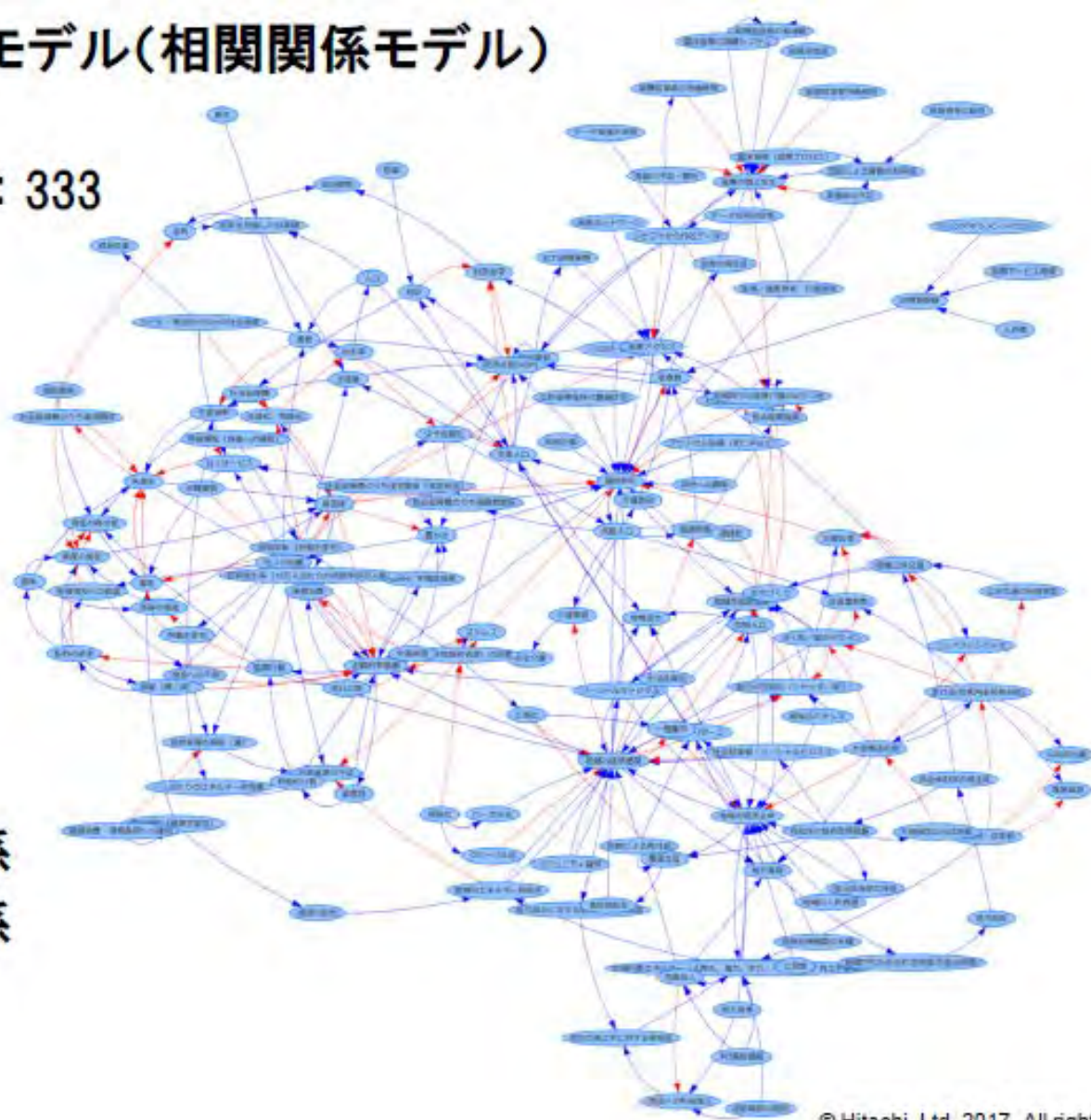
# AIを活用した、持続可能な日本の未来 に向けた政策提言



- 「**日立京大ラボ** (2016年6月開設)」との共同研究。2017年9月公表。
- 2050年の日本を視野に収めながら、①人口、②財政・社会保障、③地域、④環境・資源という**4つの持続可能性**に注目し、日本が持続可能であるための条件やそのためにとられるべき政策を提言する内容。
- 分析結果→日本社会の未来にとって、「**都市集中型**」か「**地方分散型**」かがもっとも大きな分岐点(8~10年後)。
- 人口・地域の持続可能性や健康、幸福、格差等の観点からは**地方分散型が望ましい**。

# ◆ 構築した定量モデル(相関関係モデル)

- ・指標数: 149
- ・相関(矢印)の数: 333



青線: 正の因果関係  
赤線: 負の因果関係

© Hitachi, Ltd. 2017. All rights reserved.

指標(要因)の例: 人口、生産人口、高齢人口、出生率、GDP、政府債務、税収、CO2排出量、食料自給率、地域内経済循環、地域内エネルギー自給率、雇用、労働時間、資産格差、貧困率、医療アクセス、健康寿命、主観的幸福感、ソーシャル・キャピタル等